ISSN 0915-2253

名古屋整形外科医療連携会の試み

佐　藤　公　治
名古屋第二赤十字病院整形外科
衛　藤　義　人　　佐藤智太郎
名古屋医療センター整形外科
大　澤　良　充
名古屋第一赤十字病院整形外科
渡　邊　健　太　郎
名古屋掖済会病院整形外科
安　間　英　毅
中京病院整形外科
坂　野　真　士
中部労災病院整形外科

(P. 106～109)

東海整形外科外傷研究会誌　第21巻　別刷
平成20年9月発行

名古屋整形外科医療連携会の試み

佐 藤 公 治
名古屋第二赤十字病院整形外科
衛 藤 義 人　佐 藤 智 太 郎
名古屋医療センター整形外科
大 澤 良 充
名古屋第一赤十字病院整形外科
渡 邉 健 太 郎
名古屋掖済会病院整形外科
安 間 英 毅
中京病院整形外科
坂 野 真 士
中部労災病院整形外科

Key words: Regional medical clinical pass, Nagoya orthopedics cooperative society, Femoral neck fracture, Multi-center conference

はじめに

今や，一つの病院だけで治療が完結しない．地域で医療を完結するには，顔の見える連携が必要である．筆者が医師になった25年前には，大腿骨頚部骨折は，受傷後1週間ほど牽引してから手術を行い，自宅に帰すまで約3か月の入院を要した．その後も外来で経過を診て，亡くなるまで治療した．現在では地域医療連携パスにより，急性期病院では受傷後に直ちに手術を行い，リハビリは回復期施設にゆだねる分業化が進んでいる[1~3]．厚生労働省の政策もあり，地域の医療体制構築に向かっている．平成20年の診療報酬改定でも，4疾患5事業に対して地域医療連携が加算評価されている．

八事整形医療連携会

当院の八事では1999年に，八事地区の運動器疾患を扱う医師の症例検討会と親睦を目的に「八事整形会」を立ち上げた．2003年には，整形外科に関わる医療従事者（コメディカル）中心の「八事整形医療連携会」を立ち上げた．事務局は名古屋第二赤十字病院整形外科にあり，院内外14人の役員がいる．医師，看護師，理学療法士，薬剤師，管理栄養士，ケースワーカーなどからなる．

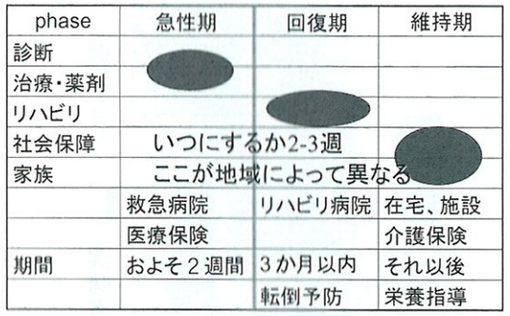
平成18年4月の診療報酬改定

ここでは，地域連携パスによる医療機関の連携体制が評価された．基本的考え方は，医療計画の見直しの動向を踏まえつつ，地域における疾患ごとの医療機関の連携体制を評価する観点から，特定の疾患に限り，地域連携クリティカルパス（地域連携パス）を活用するなどして，医療機関間で診療情報が共有されている体制について，新たに診療報酬上の評価を行う．厚生労働省HP: 全国で行われている医療連携の事例について（http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/10/s1024-8c.html）．当時は1500点が付いたが，今回の改正で900点となった．

これに伴い，多くの急性期病院が連携パスを作り始めた．単に連携加算を得るためだけなら急性期病院が計画病院となり，連携パスを作成配布し，あらかじめ転院先を登録し，年一回社会保険庁へ報告，転院した患者についての合同委員会を年3回ほど開催すればよい．

地域医療連携における急性期病院の役割

急性期疾患は，onsetから始まり一方向型の流れ（パス）となる（**図1**）．急性期施設に求められることは，早期診断と治療の方針を立てることである．準緊急手術が求められ，合併症を起こさない正確な手術と周術期管理を行うことが重要である．特に高度の認知症とMRSA感染は回復期施設から嫌がられる．



（頚部骨折は緊急手術）

図1. 地域医療連携．

急性期病院の課題

急性期病院は地域貢献の考えが必要である．急性期施設のためだけのパスには見向きもされない．回復期施設から選ばれる時代になった．急性期病院に求められることは多い．しかし，外傷がどんどん押し寄せる急性期病院には，スタッフには地域医療まで考える時間が不足している．院内のパスもあり，IT化で書類が多い．連携パスといっても，医療者用は毎日活用することが少なく十分な活用がされにくい，パスを使用しているという意識が薄くなるなどの意見が当初あった．また，回復期施設からは，follow-upはできているか，若い医師は手術をやりっぱなし！などの意見を頂いた．患者にも外傷直後の慌てた時期に，救急外来で手術から転院までを話して患者および家族は本当に理解できるか疑問である．骨折したショックに対する心のケアーも必要な時期であり冷たく感じる．

名古屋整形外科医療連携会の立ち上げ

準備会を平成18年6月29日に行った．整形外科の急性期病院地域連携パスの検討会として名古屋医療センター整形外科が事務局となった．とりあえず名古屋市内の6病院が集まり議論した．名古屋医療センター，中部労災病院，中京病院，掖済会病院，名古屋第一赤十字病院，名古屋第二赤十字病院である．第1回全体会は平成18年7月25日に開催され，第2回は9月26日，その後3か月毎に開催された（**表**）．急性期病院（計画病院）の集まりとし，ばらばらのパスだと回復期施設が困るとの視点から議論を開始した．地域連携パスの統一化を目指した．急性期病院の悩みを話し合う会である．しかし，頚部骨折の緊急手術をできるか，土日のリハは可能か，近隣の回復期施設数の違いなど，一律にはパスを共通しづらかった．まずは急性期病院同士の意識の統一化が必要だった．全体会の間に役員会を開催している．その後，名古屋市内から愛知県内の急性期病院に参加を要請した．

急性期病院の温度差

名古屋市215万人，愛知県735万人を数え，多くの急性期病院が存在する．大学病院や公立病院など規模も経営母体も異なる．また，合併症の多い患者を抱える中核病院，VIPブランド入院が多い病院，院内パスも無い急性期病院，緊急手術のできない急性期病院，頚部骨折を1週間も寝かせてから手術する病院，これから連携会を立ち上げるところの施設など様々な違いがあり，地域連携に対しては先進組と後追組に分かれる．地域連携に対する興味のアンケートでは，温度差を感じる（**図2**）．

地域連携は誰がコーディネートするか

このような横断的システムは誰が構築するのが

表. 急性期病院地域連携パス検討会の開催状況

回	日時	パネルディスカッション，職種別ディスカッション	会場
1.	2006. 7.25	頚部骨折の治療について，八事医療連携会での取組みについて	名古屋医療センター
2.	2006. 9.26	名古屋市内急性期6病院での大腿骨頚部骨折の治療とパスの現状，今後の地域連携とパスのありかた	名古屋医療センター
3.	2006.11.28	名古屋掖済会病院での地域連携パスの取組み	名古屋掖済会病院
4.	2007. 1.29	エキサイネットについて，大腿骨頚部骨折地域連携パスの運用を開始して，当院における退院調整の看護師の役割	社会保険中京病院
5.	2007. 3.20	当院における大腿骨近位部骨折・地域連携パス導入に向けて，5階西病棟における大腿骨近位部骨折患者の現状	中部ろうさい病院
6.	2007. 6.26	地域連携パスと転倒予防教室のかかわり，転倒予防教室の実際	名古屋第二赤十字病院
7.	2007. 9. 4	当院における大腿骨頚部骨折患者さんの後方病院への振り分けの現状，当院における大腿骨頚部骨折患者さんの在宅支援の現状，名古屋第一赤十字病院地域医療連携診療検討会について	名古屋第一赤十字病院
8.	2008. 1.29	リウマチの生物学的製剤の連携パス，脳卒中の連携パス，医療制度改革のこれから (長谷川友紀教授)	名古屋医療センター
9.	2008. 5.20	西三河地区の大腿骨頚部骨折の共通連携パスの運用	岡崎市民病院

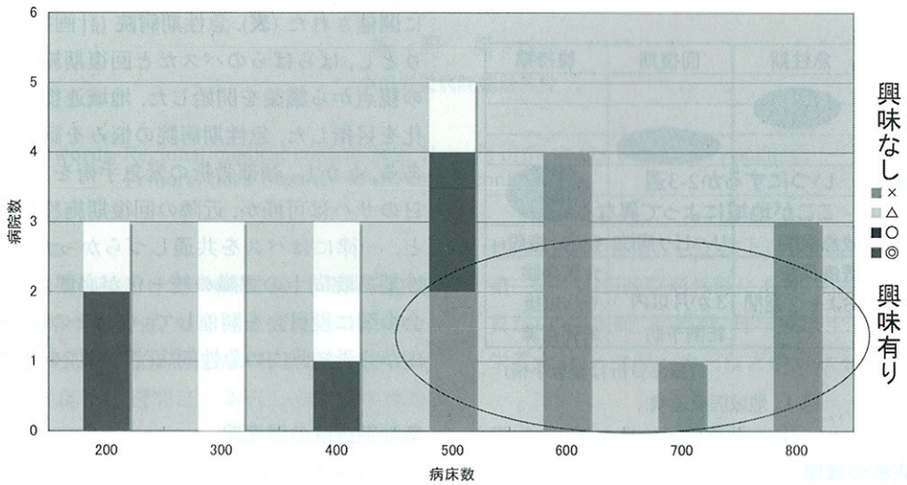


図2. 病床数と連携パスへの興味.

よいのか. 行政か, 企業か, アメリカにあるような疾病管理会社 (Boston Consulting group など) か. 糖尿病のカルナプロジェクトは, 九州大学が始めたプロジェクトに民間や行政が乗る形となった. 連携会 NPO 化などアイデアはある. 東海整形外科外傷研究会など学会や研究会との共働も考えられる. 連携は患者, 病院, 診療所, 施設, すべてにメリットがないといけない. また, 他科・他疾患との連携として 2008 年の 4 月から脳梗塞, 糖尿病, がん緩和ケアーなどの地域連携パスが開始されている.

となると連携会だらけとなるおそれがある. この解決策を当連携会で解決できないか議論している. 1 日中での時間差で多疾患のカンファレンス, 1 地域で共同開催, インターネットの利用 (ビデオ会議) などの意見が出ている. 計画病院は多くの回復期施設を集めるには魅力ある連携会を開くことが重要である. 加算を取るためやパスのための連携会ではなく, 真の患者のための, またスタッフのための連携会運営でなければいけない.

ま と め

ますます地域連携が重要視されるようになった. 平成 18 年に大腿骨頚部骨折の地域連携パスを通じて愛知県地域の急性期病院 (計画病院) の連携を考える会を設立した. 救急医療も含め急性期病院整形外科の悩みを検討していきたい.

文 献

1) 野村一俊: 地域連携クリティカルパス. 地域連携クリティカルパスの基本と実際. 日本医療マネジメント学会雑誌 8: 408-413, 2007.
2) 佐藤智太郎: 大腿骨頚部・転子部骨折に対する地域連携クリティカルパスの試み. Hip Joint 33: 579-581, 2007.
3) 佐藤公治, ほか:【わかる! できる! 今日から始める地域連携クリティカルパス】. 地域連携クリティカルパスネットワークの立ち上げと運営の実際. 愛知県八事整形医療連携会の立ち上げと運営の実際. 整形外科看護 2007 秋季増刊: 99-137, 2007.